

令和2年度 宍粟市立一宮南中学校 学校評価

本年度、スローガン【笑顔と瞳輝く学校に ～心を極めろ～】のもと、次のような学校重点目標を掲げて教育活動を展開してきました。

- 1 命と人権を大切にし、共に生きる豊かな心を育てる
- 2 自立して未来に挑戦する力、社会の変化に柔軟に対応する力、たくましく生き抜く力を培う
- 3 基礎・基本の定着を図り、一人一人の個性を生かす教育を進める
- 4 特別支援教育の充実を図り、楽しく充実した学校づくりを推進する
- 5 体験学習の場と機会を設け、キャリア教育の推進を図る
- 6 家庭・地域と連携し、信頼関係に基づいた教育を推進する
- 7 研修と研鑽に励み、教師力の向上を図る
- 8 安全・安心の学校づくりを進める

本年度の学校評価に向けて、令和2年11月末～12月初旬に、生徒・保護者・教師を対象とするアンケートを実施しました。アンケートの質問項目は、本年度の学校重点目標に沿ったもので、次の5つの観点で設定しました。

- | | |
|-----------------|---------------|
| (1) 確かな学力の育成 | (2) 豊かな心の育成 |
| (3) 健やかな体の育成 | (4) 特色ある学校づくり |
| (5) 安全・安心の学校づくり | |

アンケートの質問項目には、A（よくあてはまる）、B（ややあてはまる）、C（あまりあてはまらない）、D（まったくあてはまらない）の4段階の評価をしていただきました。

そして、アンケート結果をもとに、さらに、実践記録や生徒や教職員の感想・反省などから、次のように、5つの観点ごとに本年度の成果と課題について分析し、改善策を協議し、来年度への取組の基盤づくりをしました。これらの学校としての自己評価は、今後、委嘱している地域の学校評議員や学校関係者評価委員の皆さまに見ていただき、ご指導やご助言を賜ることにしています。

(1) 「確かな学力の育成」について

【分析】

- ・家庭学習について、充実させようと努力している生徒は多いが、「学習した成果がなかなか結果に表れない」とか「学習時間が短い」などから、生徒・保護者とも評価がやや低い傾向にあると思われる。また、始業前に忘れていた宿題を教室であわててしている姿を見かけることもあり、教師が指導する場面がいくらかあった。
- ・学校では、「読書タイム」や「昼休み」などの時間に熱心に取り組んでいる生徒が増えてきたが、家庭での読書の時間を十分に確保できないでいる。本年度はPTA研修部にも活動いただいたが、さらに読書の魅力を感じさせ、日常生活の中に読書の時間を設定し、積極的に取り組ませる工夫が必要である。
- ・約2カ月の臨時休業により、学習内容の遅れが生じないように、年間カリキュラムを組み直す必要が生じた。また、感染症対策のために、学習活動にも制限がかかった。これらのことから、生徒が主体的な学習活動が十分にできなかったのではないかと考える。

【改善の方策】

- ・一南タイムの充実を各学年ごとに図り、場合によっては、習熟度別にプリントを作成するなど時間の有効活用を行う。
- ・課題の出し方を工夫するとともに、自主学习ノートにより家庭学習の定着を図る。
- ・P T A活動や生徒会活動と連携し、図書室の整備や読書量の向上を図る。
- ・新学習指導要領に沿った各教科ごとの研修をさらに行い、授業改善を進めていく。
- ・通信やH Pの充実を図り、学校や学年・生徒会の取組が保護者や地域に伝わるよう工夫する。

(2)「豊かな心の育成」について

【分析】

- ・本校の教育の基盤が「人権教育」にあることを生徒、保護者、教師とも認識し、「一南家族」「いつも隣の人のことを考えよう」を合言葉として、人権意識の向上に努めている。
- ・教師は道德の時間を確保し、生徒は道德授業に意欲的に参加している。
- ・学校行事においては、本年度は新型コロナウイルス感染症が拡大し、中止にしたり規模を縮小したりせざるを得なかったが、そんな中で工夫を凝らしながら実施し、一定の達成感や満足感を得られたことで、評価は高かった。
- ・生徒は総じて熱心に部活動に取り組み、保護者の理解も得られている。本年度は活動を大きく制限をされたが、部活動をとおして人間力の向上も見られた。

【改善の方策】

- ・来年度も年2回以上の講師を招聘した授業研究会や研修会を行い、道德教育・人権教育の充実を図っていく。
- ・特別支援教育の校内研修会を年1回以上実施するとともに学期に2回以上は校内委員会を開催し、職員の協働体制を充実させる。
- ・今後も生徒との意思疎通や保護者との連携を大切にしながら、豊かな心を育む学校行事や部活動の充実を図る。

(3)「健やかな体の育成」について

【分析】

- ・「早寝早起き朝ごはん」が各家庭で実践され、地域でも校内でもさわやかな挨拶が交わされている。しかし、朝ごはんを食べてこない生徒や、深夜おそくまでSNSやゲームをしている生徒がいくらかいるので、指導や支援が必要である。
- ・給食を残さない取組を生徒会中心に行い、給食を大切に感謝する心を育てている。
- ・リズムジャンプを継続して体育の授業の準備運動で実施しており、さらに授業で行う種目と関連させて行っているため、技能はもちろん柔軟性や敏捷性などが向上している。
- ・家庭と学級担任、部活動担任、養護教諭、スクールカウンセラーが連携して体と心の健康の増進に努めている。

【改善の方策】

- ・毎朝の健康チェックの改善を行い、基本的な生活習慣や保健衛生の徹底を図る。
- ・来年度も感染症対策の徹底しながら、家庭科での給食調理実習や食に関する授業を推進していく。
- ・本校の伝統・特色となったリズムダンスやリズムトレーニングを来年度も取り入れ、基礎体力の

向上を図る。

- ・感染症対策の徹底を含め、学級指導だけでなく生徒会活動とも連携し、健康相談や保健指導の充実を図る。

(4)「特色ある学校づくり」について

【分析】

- ・生徒は「自然や環境の大切さを意識して生活」している。生活環境である校舎をきれいに扱い、黙動清掃を毎日行っている。花いっぱい運動でグラウンド沿いの通学路に四季を通じて花を咲かせていることや、例年行っているリサイクル活動（アルミ缶回収）から、環境への意識は高いと言える。教師の評価が低いのは、広い意味での環境教育が学校の取組として不十分であるとの考えからである。
- ・「特色ある学校づくり」として、地域人材を活用した「ふるさと講座」や「小中一貫教育の推進・こども園との交流」に取り組んでいるが、本年度は感染症拡大により十分な取組ができなかった。

【改善の方策】

- ・トライやる・ウィークの事前・事後学習や「ふるさと講座」に地域人材等を活用し、キャリア教育や進路指導の充実を図る。
- ・学習規律や学習方法の共同研究を通じて小中一貫教育の推進を図る。
- ・6年生の中学校体験やこども園との交流会を小学校やこども園との連携を図り、より充実したものに改善する。
- ・花壇の花の入れ替え、アルミ缶回収、「ふるさと講座」等の行事をとおして環境教育の充実を図る。

(5)「安全・安心の学校づくり」について

【分析】

- ・教職員が朝の交通立ち番や下校時間帯に地域で交通安全指導を行っていることを、生徒や保護者が高く評価している。保護者や地域の声に対してもすぐに指導に反映させていることを理解していただいている。
- ・防災訓練、防災教育、危機管理体制の構築について、感染症対策もふくめ、教師自身が意識を高くし、生徒に伝え、考えさせていく必要がある。保護者にも協力いただけるよう、学校の取組が分かるように、学校からの情報発信を充実させる必要がある。
- ・教育相談の充実は、評価ポイントにおいて教師と生徒・保護者の意識のずれがみられる。とくに、本年度は、春先の一斉家庭訪問や授業参観、オープンスクール、自治会別懇談会などが実施できず、生徒の学校生活の様子を見ていただいたり、保護者とじっくり話をする機会が少なかった。また、各学年ごとに、担任と生徒との二者面談を実施し生徒理解に努めようとしたが、普段の生活から悩みや不安を相談しやすい雰囲気づくり、人間関係づくりをしていかなければならない。

【改善の方策】

- ・交通安全教室は、4月当初に実施するとともに、登下校指導を徹底し、年間を通じて安全な登下校の確保に努める。
- ・様々な状況下での防災訓練を実施するとともに、講師を招聘した防災教育の充実を図り日頃より防災についての意識を高める。
- ・教員を対象とした様々な状況を想定した訓練を年3回は実施し、危機管理体制の構築に努める。
- ・家庭との連携・連絡を密にするとともに、年1回は学年懇談会を開催し、日頃の悩みを共有できる場を設ける。